

第102回 資金管理業務諮問委員会

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

2023年9月26日

委員名簿

| | | |
|-----|--------|-------------------------------------|
| 委員長 | 菅原 周一 | 文教大学大学院国際学研究科 教授 |
| 委員 | 井岡 智子 | 一般財団法人消費科学センター 理事 |
| 委員 | 大沼 あゆみ | 慶應義塾大学経済学部 教授 |
| 委員 | 佐々木 隆文 | 中央大学 総合政策学部 教授 |
| 委員 | 高岡 昌輝 | 京都大学大学院工学研究科 教授 |
| 委員 | 村上 進亮 | 東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻 教授 |
| 委員 | 村上 千里 | 公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 理事 |
| 委員 | 山田 奨 | 公認会計士・税理士 |

(五十音順、敬称略)

審議内容

| | | |
|-------------------------|--------|--------------------|
| 1. 2023年度第1四半期の概況 | 《報告事項》 | …… P3 |
| 2. 2023年度第1四半期の決算報告 | 《報告事項》 | …… P8 (資料1をご参照) |
| 3. 2023年度第1四半期の運用実績 | 《報告事項》 | …… P20 |
| 4. 合同会議の報告書における提言内容への対応 | 《諮問事項》 | …… P28 (非公開) |

* 赤字は今回特にご審議いただきたい事項。

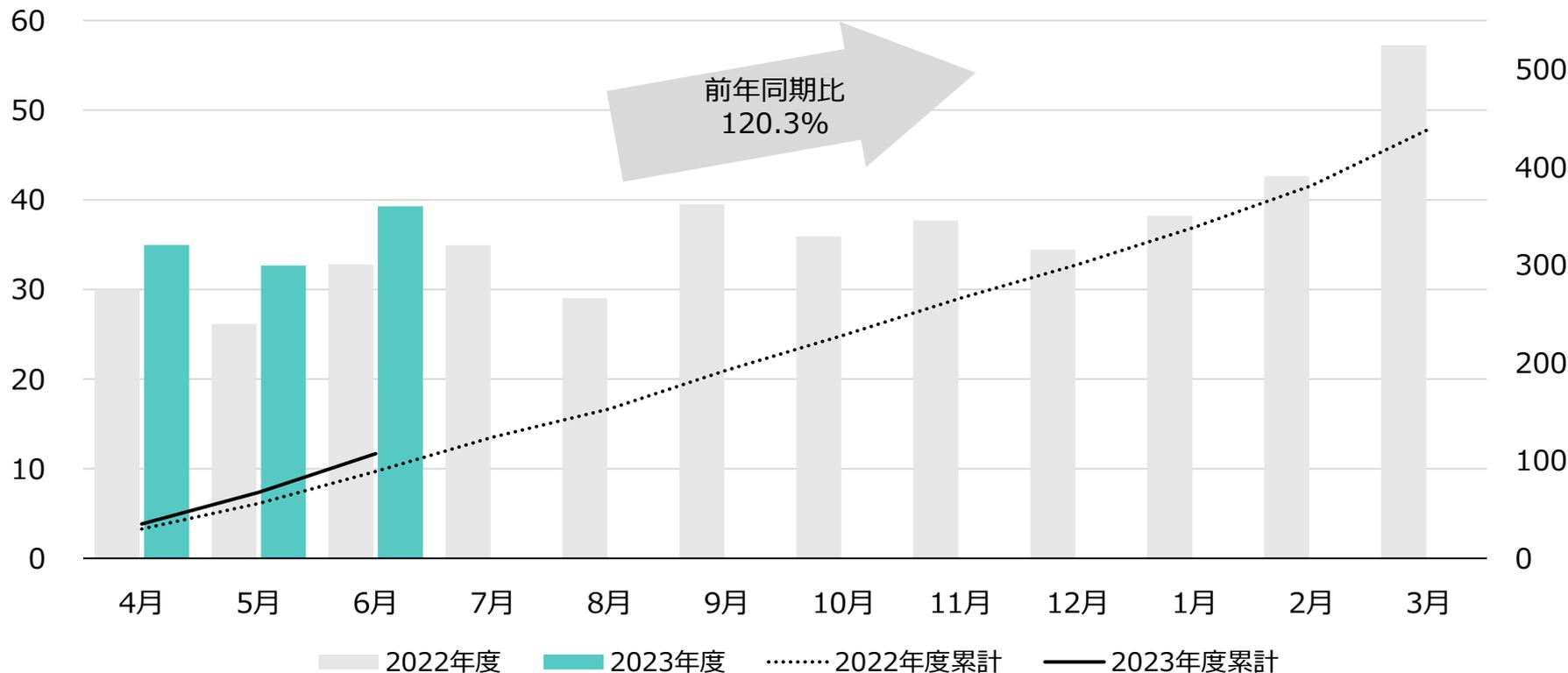
1. 2023年度第1四半期の概況 (1) 預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

2023年度第1Q（4月～6月）の新車販売台数は、半導体不足や部品調達難が改善の傾向となったことにより、前年同期比で120.3%。登録車は前年同期比で127.7%、軽自動車は108.9%となった。

① 新車販売台数

(単位：万台【単月】)

(単位：万台【累計】)



* 新車販売台数は一般社団法人日本自動車販売協会連合会及び一般社団法人全国軽自動車協会連合会の公表データの集計値。

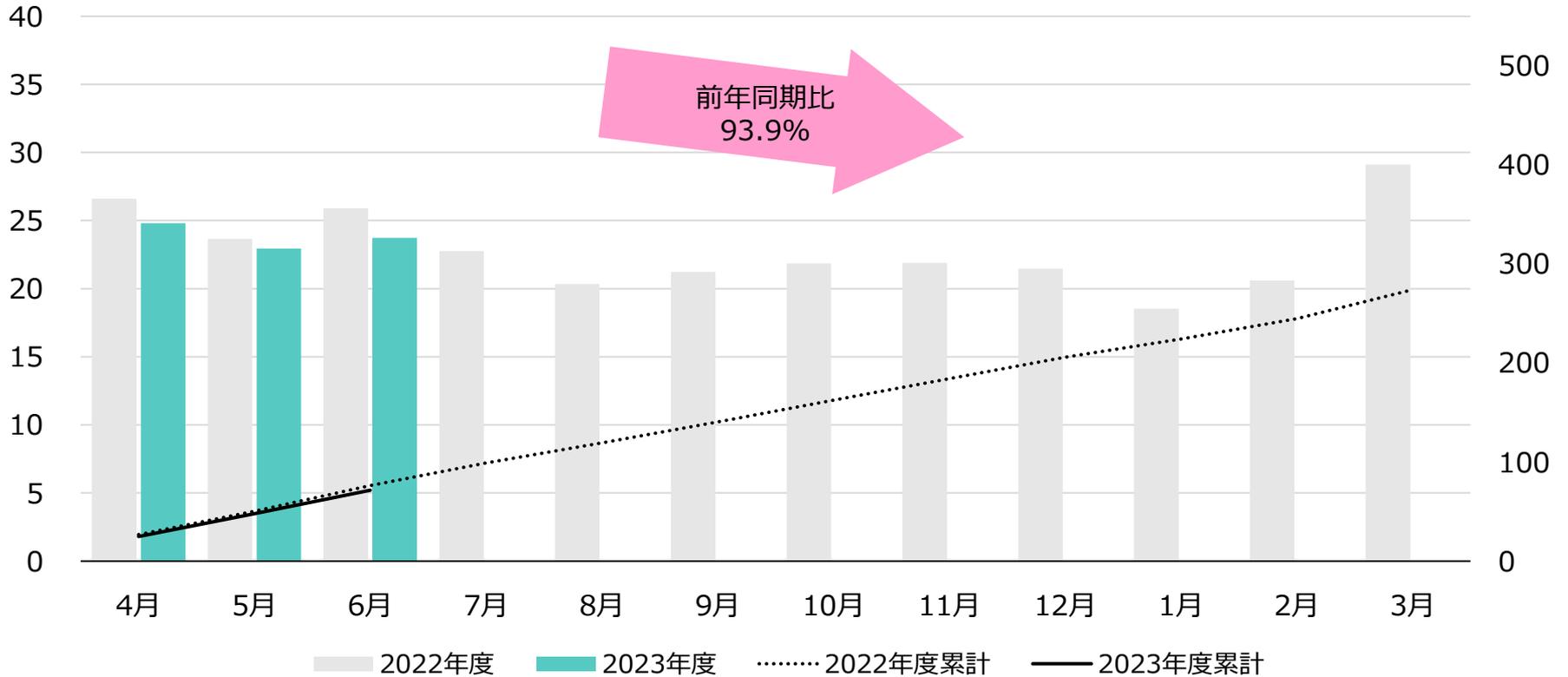
1. 2023年度第1四半期の概況 (1) 預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

2023年度第1Q（4月～6月）の使用済自動車引取台数は前年同期比で93.9%。2022年度は、法施行以降最も低い水準だったが、2023年度もその傾向が続いている。

② 使用済自動車引取台数

(単位：万台【単月】)

(単位：万台【累計】)

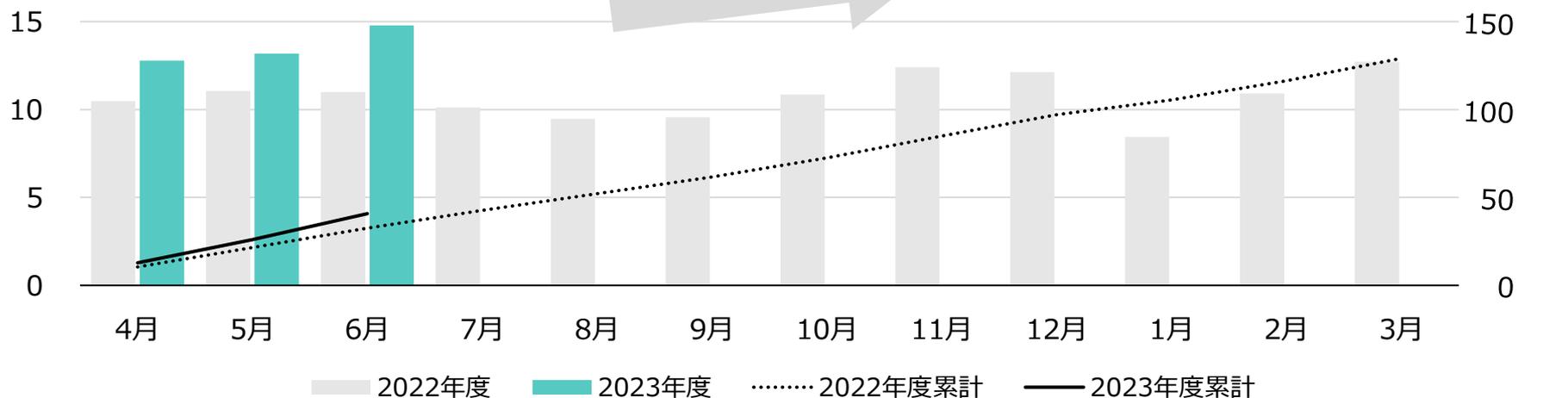


1. 2023年度第1四半期の概況 (1) 預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

2023年度第1Q（4月～6月）の中古車輸出台数は、ロシアへの輸出が増加したこと等により、前年同期比で125.3%と増加した。

③ 中古車輸出台数

(単位：万台【単月】)



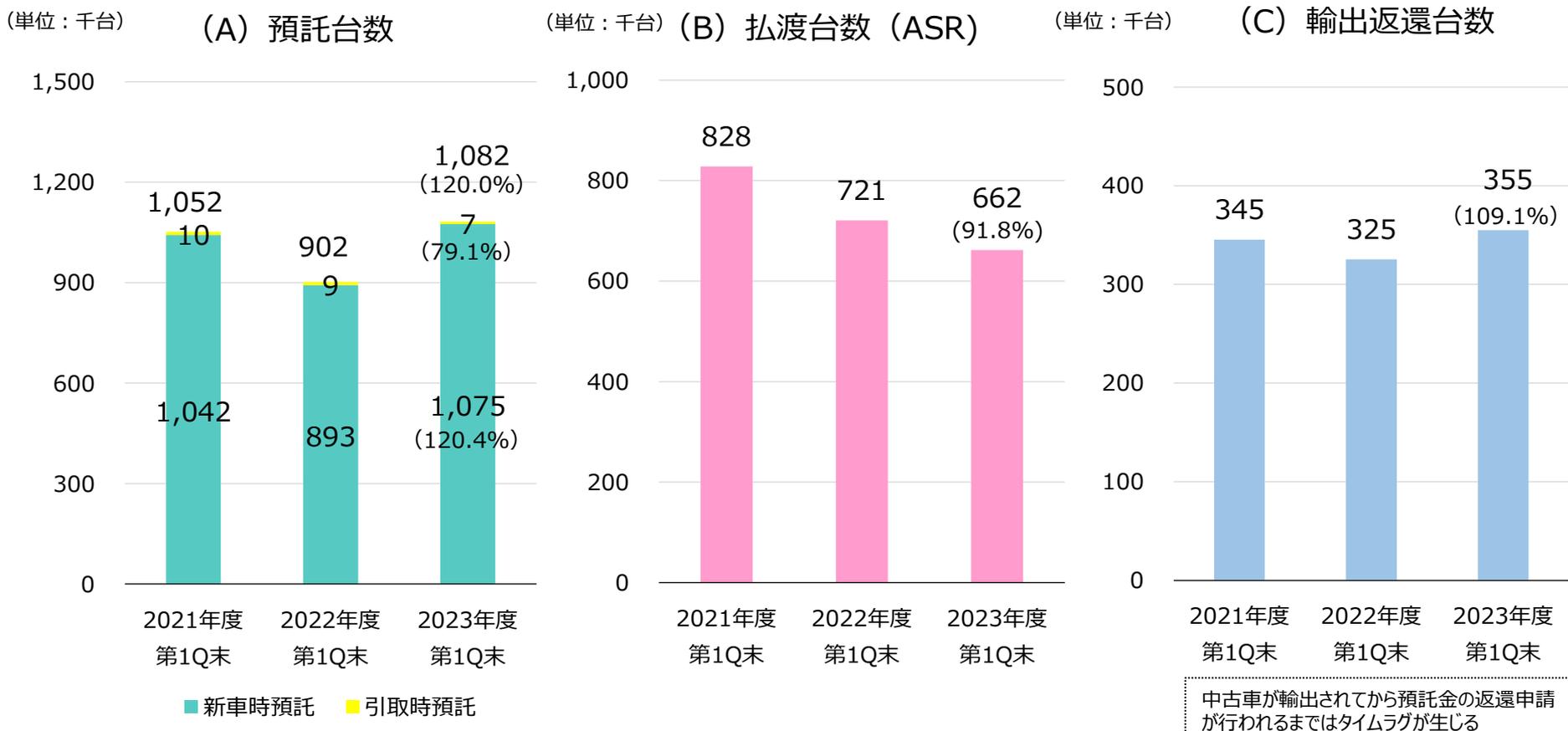
| 順位 | 2023年度第1Q | | | 2022年度第1Q | | |
|----|-----------|---------|----------|-----------|---------|-------|
| | 地域 | 台数 | 前年同期比 | 地域 | 台数 | 前年同期比 |
| 1 | アフリカ | 91,777 | ↑ 109.1% | アフリカ | 84,086 | 96.5% |
| 2 | 中東欧・ロシア | 77,785 | ↑ 181.4% | アジア | 63,774 | 90.4% |
| 3 | アジア | 75,942 | ↑ 119.1% | 中東欧・ロシア | 42,875 | 91.2% |
| | 輸出総台数 | 407,363 | ↑ 125.3% | 輸出総台数 | 325,209 | 97.0% |

* 出典：財務省貿易統計（20万円以下の少額貨物は含まない。）

1. 2023年度第1四半期の概況 (1) 預託・引取・輸出返還に係る台数の動向

- (A) 新車販売台数が前年同期比で増加したことから、預託台数は前年同期を上回った。
- (B) 使用済自動車引取台数が減少したことから、払渡台数 (ASR)は前年同期を下回った。
- (C) 中古車輸出台数が増加したこと等から、輸出返還台数は前年同期を上回った。

④ 預託・引取・輸出返還に係る台数の実績 * グラフのカッコ内は前年同期比

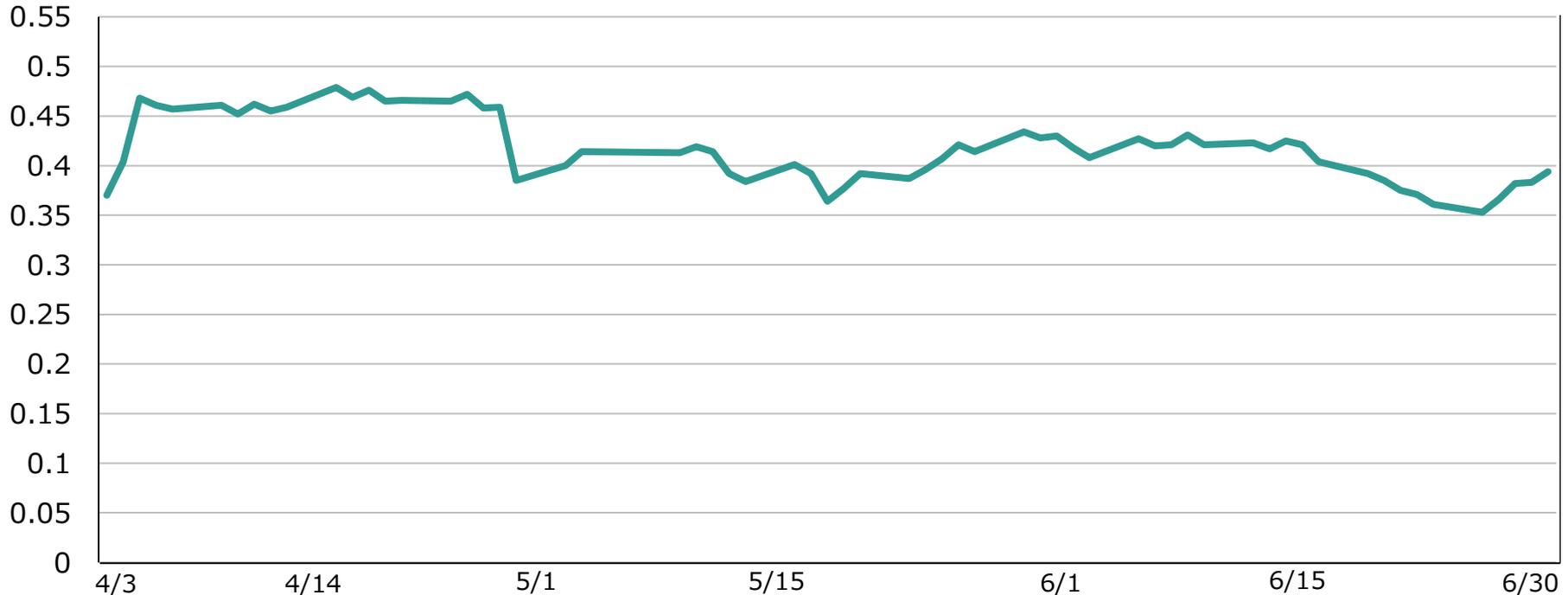


1. 2023年度第1四半期の概況 (2) 金利の動向

第1Qにおいては、米国では、FRBの利上げ停止が意識されるなか、5月3日に開催されたFOMCではインフレ抑制が優先され、0.25%の利上げを決定。その後、長期金利は5月から6月にかけて3.8%台まで上昇。一方、日本においては、4月9日の植田新総裁の就任前から、日銀の早期の政策修正への警戒感が高まり、長期金利は4月においては一時0.47%まで上昇、5月には政策修正観測が後退したことから低下、その後はほぼ横ばいで推移。6月においては、6月16日に開催された日銀の金融政策決定会合にて金融緩和政策の維持が決定したことを受け、長期金利は一時0.35%まで低下。

(単位：%)

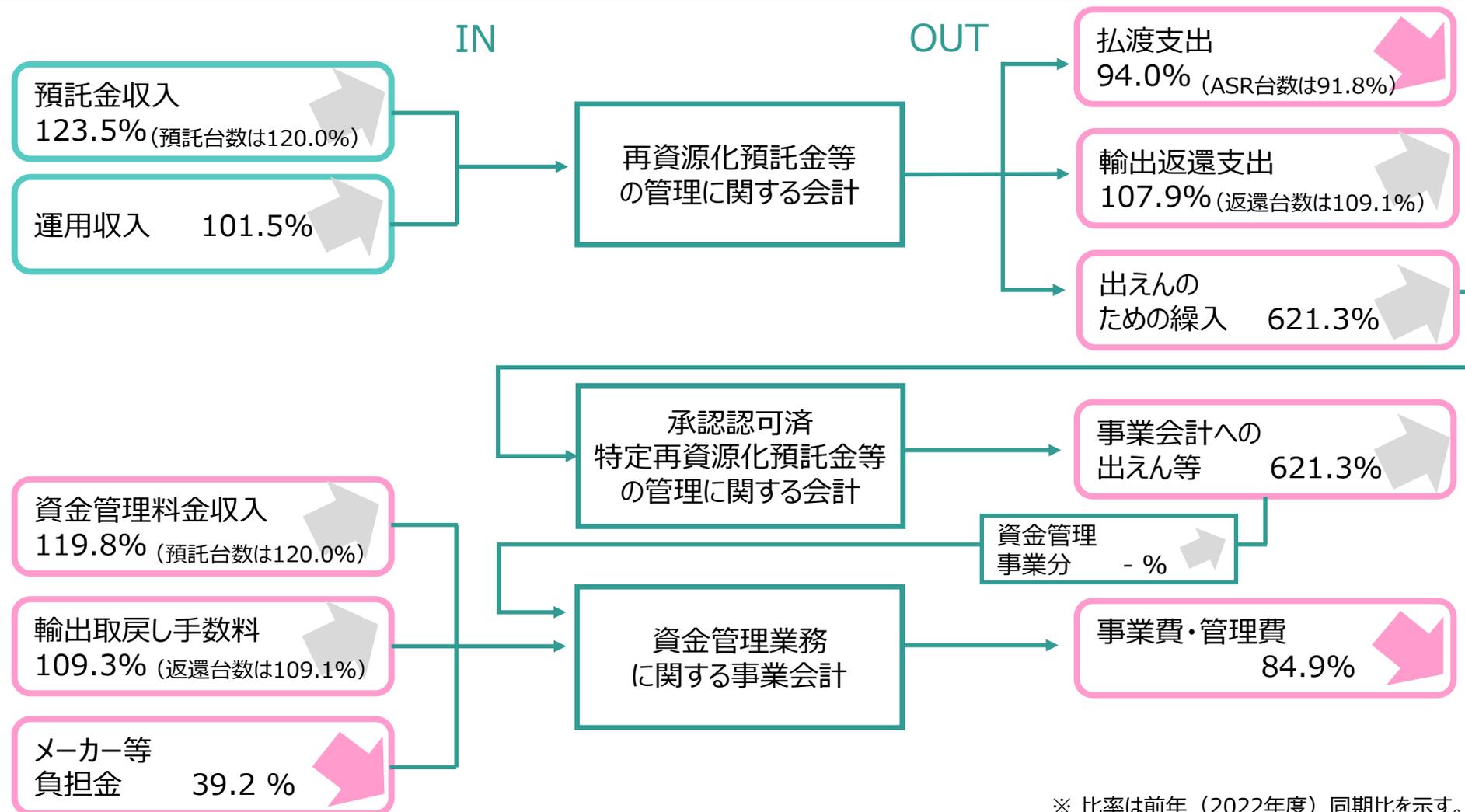
10年国債の利回り推移



* 出典 : Bloomberg

2. 2023年度第1四半期の決算 (1) 総括

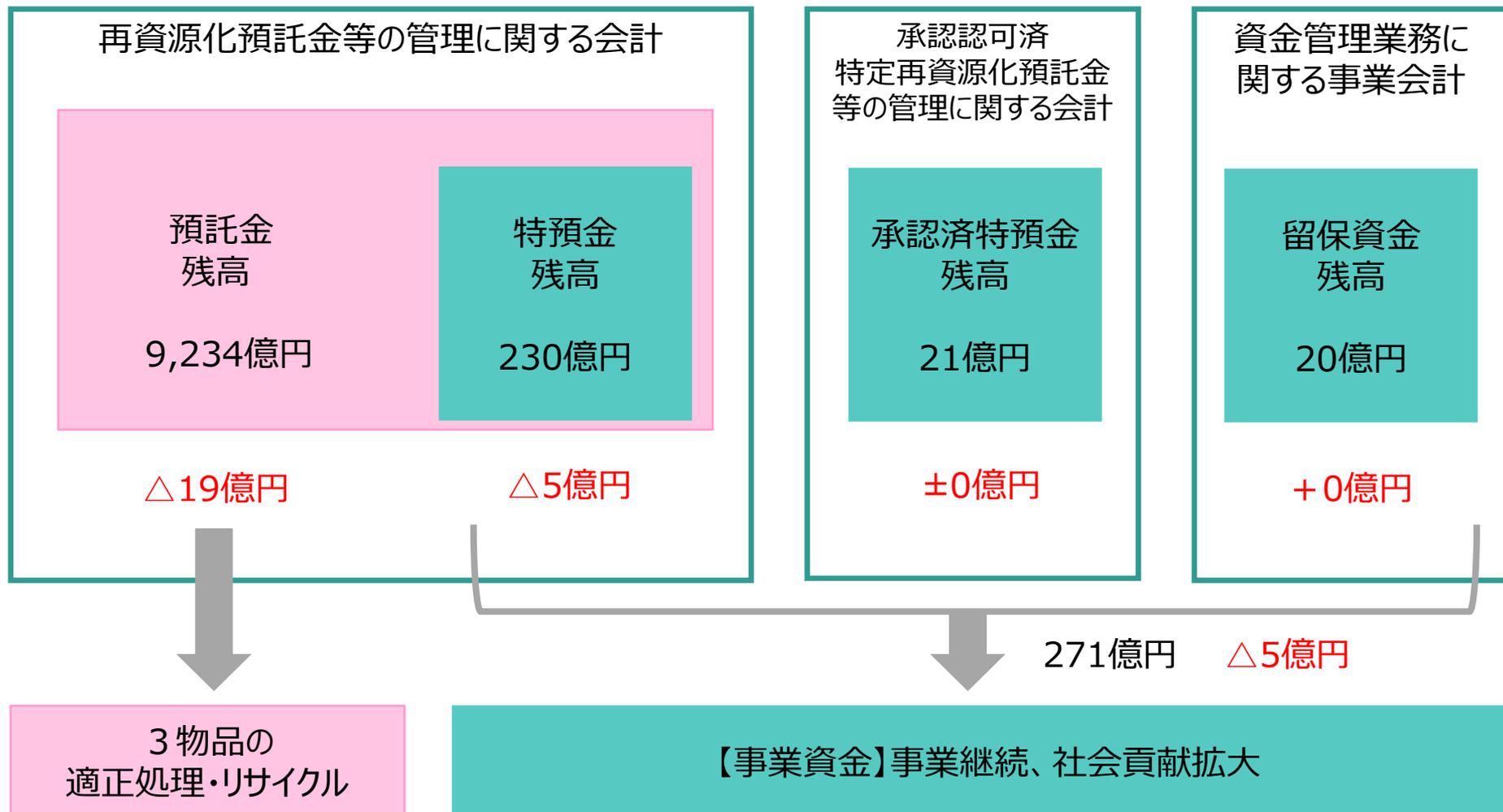
第1Q末の資金管理センター3会計のフローの概況（前年同期比）は下図のとおり。預託台数が増加（前年同期比120.0%）したこと等に伴い、預託金収入は増収となった。また、自動車リサイクルシステムの大改造により、事業会計への出えん等が増加（前年同期比621.3%）した。



※ 比率は前年（2022年度）同期比を示す。

2. 2023年度第1四半期の決算 (1) 総括

第1Q末の資金管理センター3会計のストックの概況は下図のとおり。預託金の残高は減少、特預金の残高もシステム大改造に関する出えん等が実施されたことに伴い減少。



※赤字の金額は2022年度末比の増減を示す。

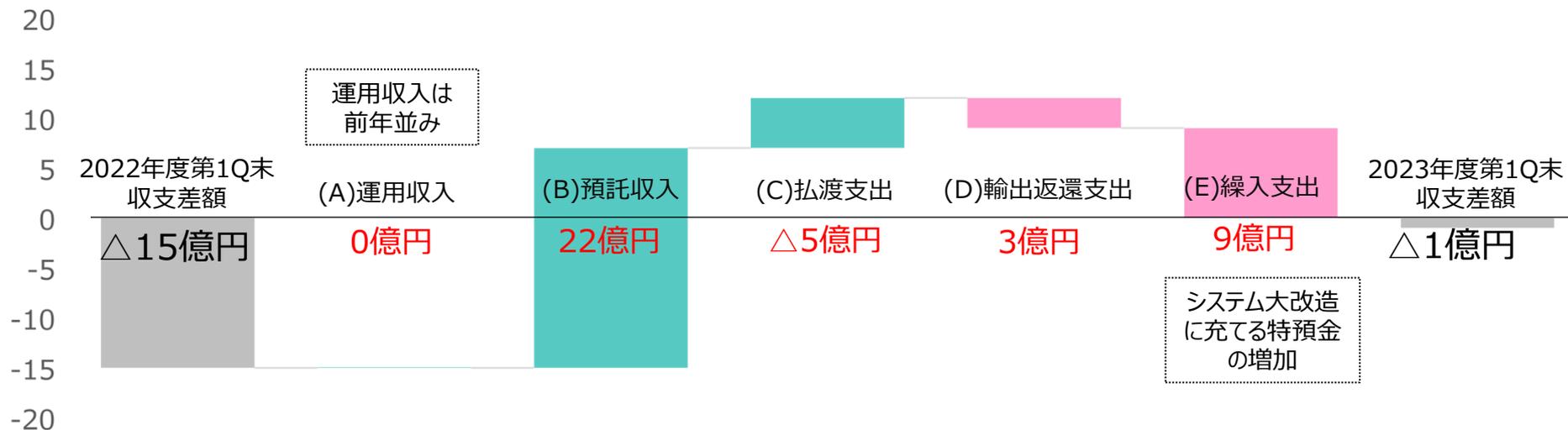
2. 2023年度第1四半期の決算 (2) 再資源化預託金等の管理に関する会計

預託台数の増加や1台当たりの預託の平均単価が大幅に上昇した（次頁参照）こと、並びに払渡台数が前年を下回ったこと等により、収支差額は前年同期に比して増加（△15億円 → △1億円）。

①フローの状況（事業活動収支）

■ 増加要因 ■ 減少要因

(単位：億円)



(B)の内訳

| | 当年度 | 前年度 | 比率 |
|--------|-------|------|------|
| フロン類 | 4億円 | 7億円 | 51% |
| エアバッグ類 | 27億円 | 22億円 | 126% |
| ASR | 81億円 | 62億円 | 131% |
| 情報管理 | 1億円 | 1億円 | 120% |
| 合計 | 113億円 | 92億円 | 124% |

22億円の増加

(C)の内訳

| | 当年度 | 前年度 | 比率 |
|----|------|------|-----|
| 元本 | 72億円 | 76億円 | 94% |
| 利息 | 11億円 | 12億円 | 92% |
| 合計 | 82億円 | 88億円 | 94% |

5億円の減少

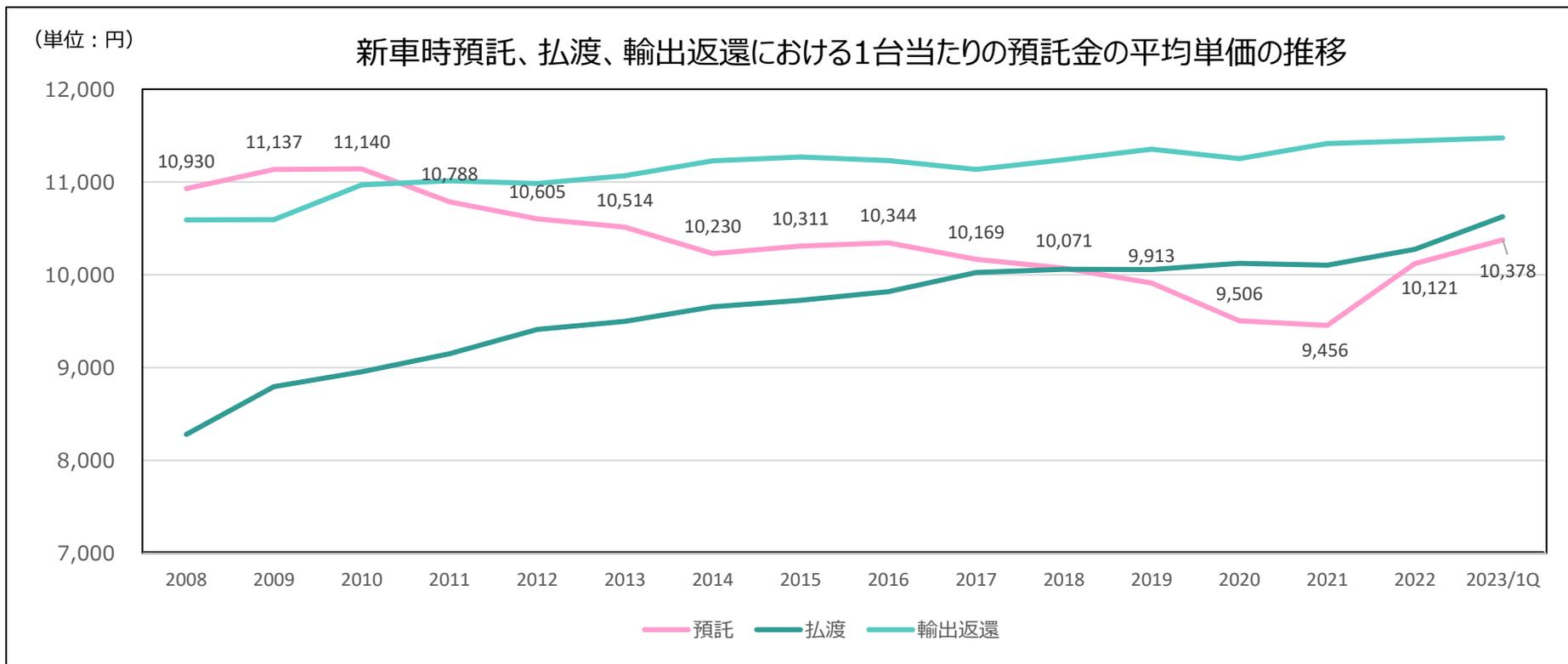
(D)の内訳

| | 当年度 | 前年度 | 比率 |
|----|------|------|------|
| 元本 | 41億円 | 38億円 | 109% |
| 利息 | 4億円 | 4億円 | 97% |
| 合計 | 45億円 | 42億円 | 108% |

3億円の減少

2. 2023年度第1四半期の決算 (2) 再資源化預託金等の管理に関する会計

第1Q末の新車時預託における1台当たりの預託金の平均単価は、前年度の10,121円から10,378円に上昇（257円のアップ、前年比103%）。

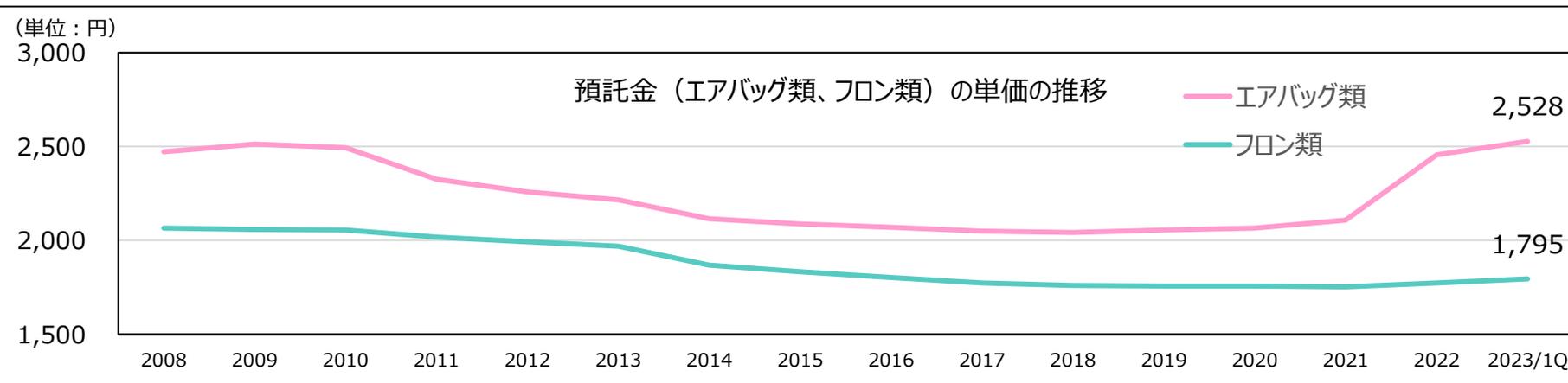
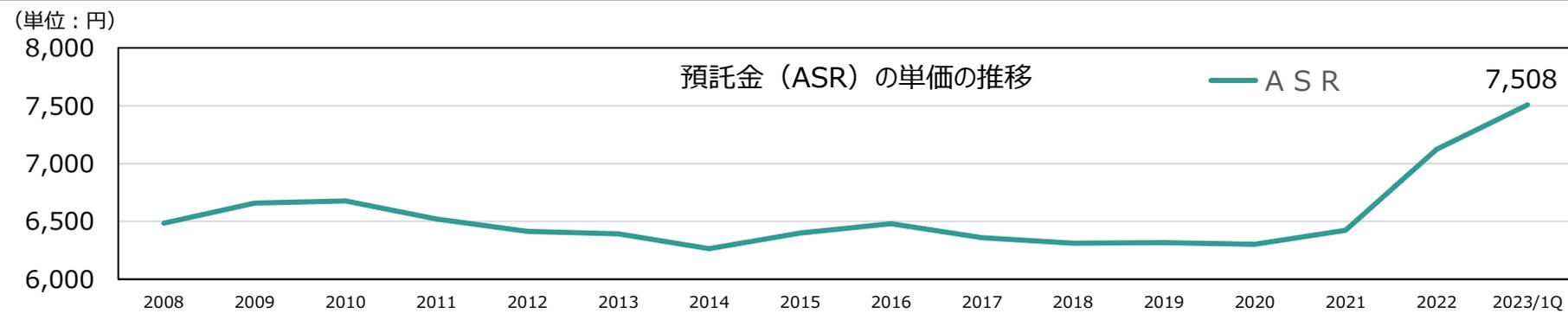


| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023/1Q |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 新車時預託 | 10,930 | 11,137 | 11,140 | 10,788 | 10,605 | 10,514 | 10,230 | 10,311 | 10,344 | 10,169 | 10,071 | 9,913 | 9,506 | 9,456 | 10,121 | 10,378 |
| 払渡 | 8,280 | 8,797 | 8,956 | 9,151 | 9,411 | 9,499 | 9,656 | 9,726 | 9,819 | 10,026 | 10,061 | 10,057 | 10,126 | 10,103 | 10,276 | 10,628 |
| 輸出返還 | 10,594 | 10,595 | 10,969 | 11,014 | 10,986 | 11,069 | 11,230 | 11,271 | 11,231 | 11,137 | 11,240 | 11,354 | 11,253 | 11,416 | 11,445 | 11,476 |

※情報管理料預託金を除く指定3品目に係る預託金のみを対象としている

2. 2023年度第1四半期の決算 (2) 再資源化預託金等の管理に関する会計

指定3品目ごとの預託金の平均単価の推移は下のグラフのとおり。2023年度第1Qにおいては、前年度に比して、ASRの単価（384円のアップ）とエアバッグ類の単価（72円のアップ）が上昇している。



| | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023/1Q |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| ASR | 6,484 | 6,659 | 6,678 | 6,520 | 6,414 | 6,391 | 6,264 | 6,398 | 6,480 | 6,359 | 6,312 | 6,317 | 6,302 | 6,424 | 7,124 | 7,508 |
| エアバッグ類 | 2,472 | 2,512 | 2,493 | 2,325 | 2,258 | 2,216 | 2,116 | 2,088 | 2,070 | 2,050 | 2,043 | 2,055 | 2,065 | 2,108 | 2,456 | 2,528 |
| フロン類 | 2,065 | 2,059 | 2,056 | 2,018 | 1,993 | 1,970 | 1,868 | 1,833 | 1,803 | 1,774 | 1,760 | 1,758 | 1,758 | 1,753 | 1,773 | 1,795 |

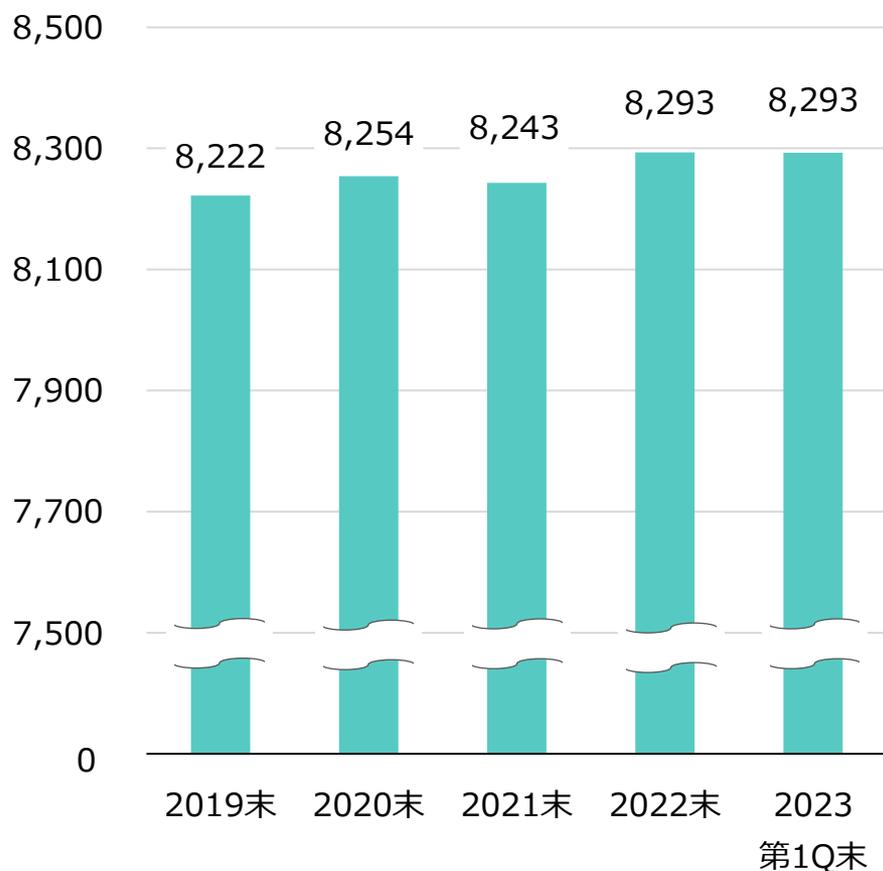
2. 2023年度第1四半期の決算 (2) 再資源化預託金等の管理に関する会計

第1Q末時点での預託台数は8,293万台。預託金の残高は9,234億円、前年度末に比して19億円の減少。

②ストックの状況

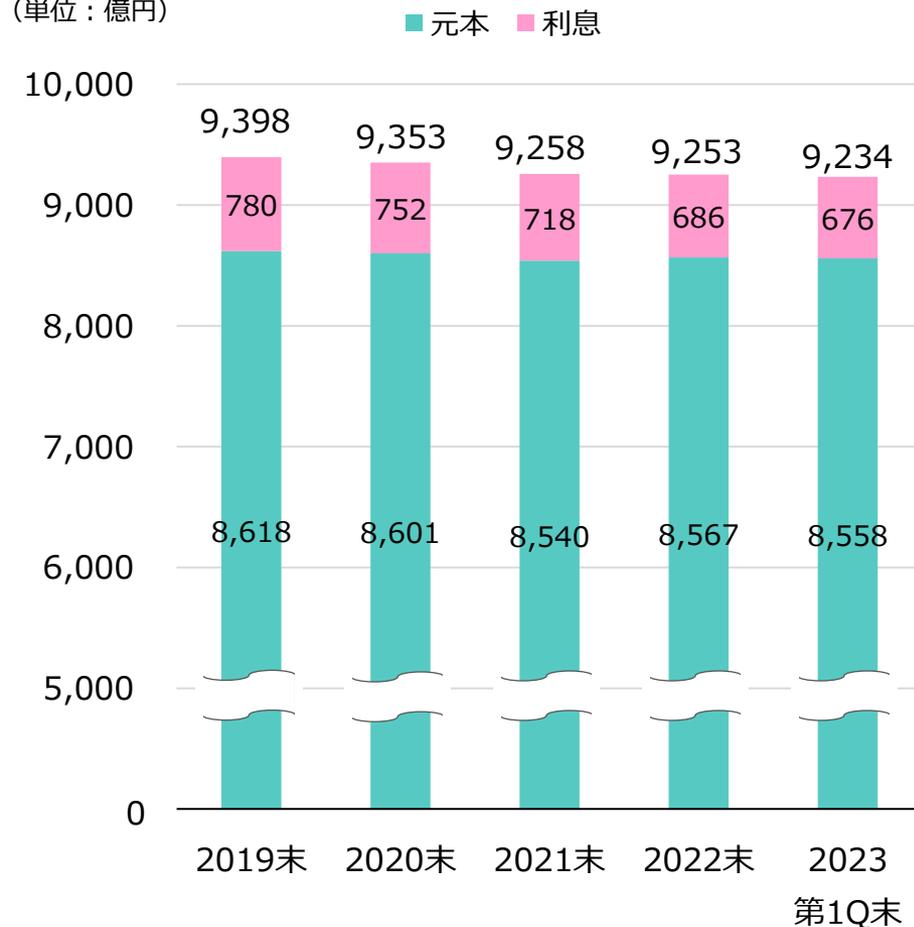
預託台数の推移

(単位：万台)



預託金残高の推移

(単位：億円)



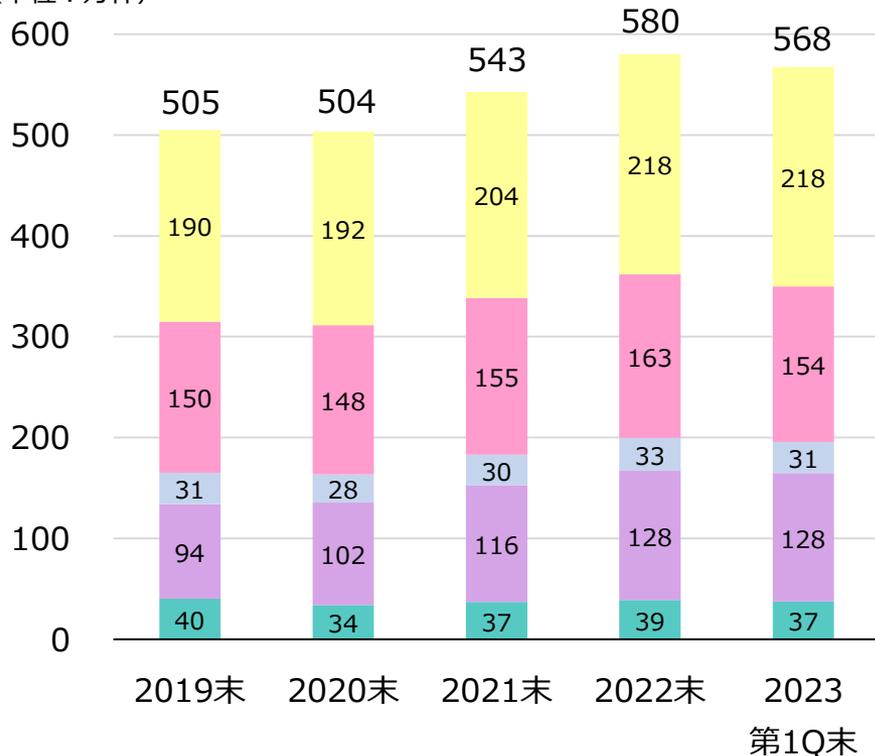
2. 2023年度第1四半期の決算 (2) 再資源化預託金等の管理に関する会計

第1Q末時点において預託金残高に含まれる特預金の残高は230億円。

特預金件数の推移

- 輸出返還時効
- フロン再利用
- 事故等（フロン類）
- 非認定全部利用
- 事故等（エアバッグ類）

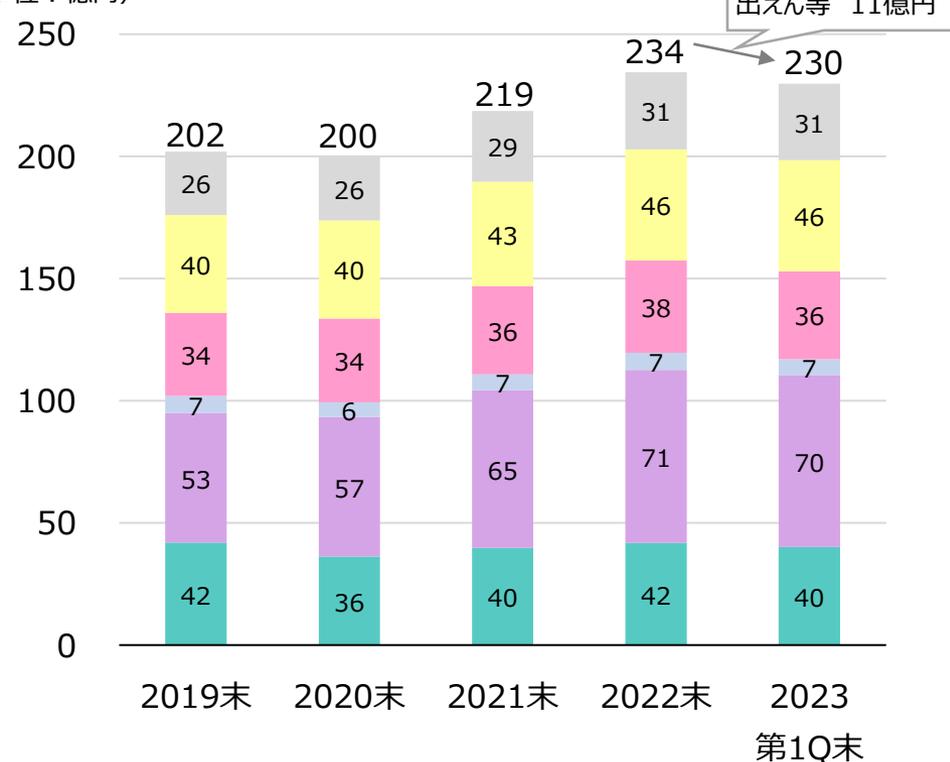
(単位：万件)



特預金残高の推移

- 輸出返還時効
- フロン再利用
- 事故等（フロン類）
- 非認定全部利用
- 事故等（エアバッグ類）
- 利息

(単位：億円)



* 特預金残高を構成する件数。出えん等の件数は差し引かれているため、累計の件数ではない。

2. 2023年度第1四半期の決算 (2) 再資源化預託金等の管理に関する会計

第1Qまでに発生した特預金の額は5.7億円、前年同期比で0.6億円の増加となった。

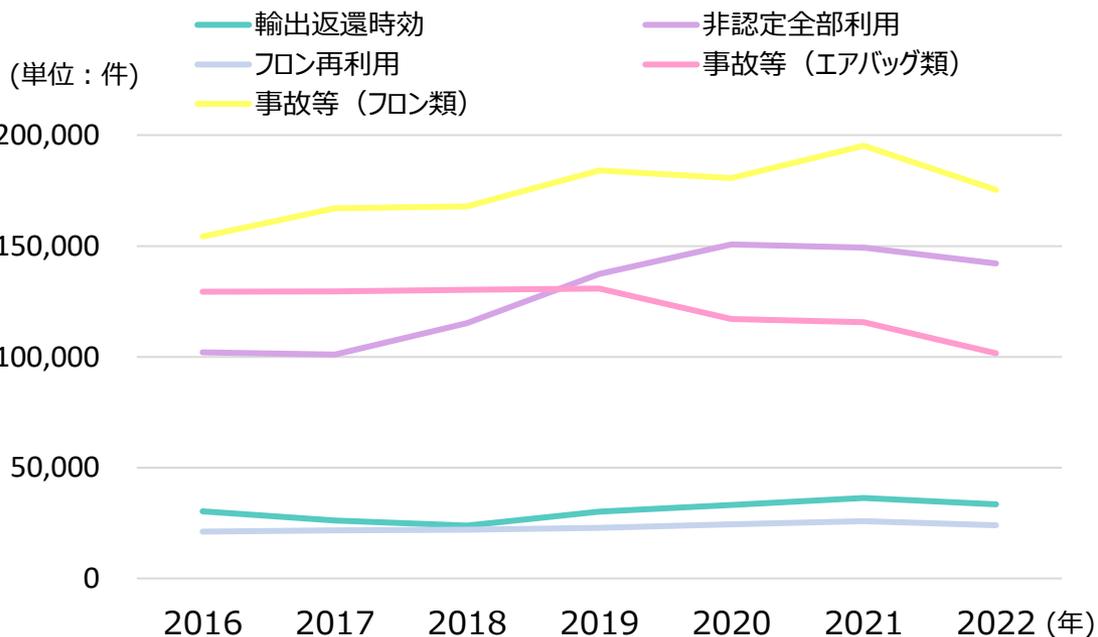
特預金の発生事由別の金額と件数 (前年同期比)

上段：金額（単位：百万円）

下段：件数

| | 2023年度 第1Q末 | 2022年度 第1Q末 | 増減率 |
|----------------------|----------------|----------------|------|
| 輸出返還時効 | 74 | 73 | 101% |
| | 6,966 | 6,791 | 103% |
| 非認定全部利用 | 217 | 170 | 127% |
| | 41,009 | 33,182 | 124% |
| フロン再利用 | 56 | 46 | 121% |
| | 26,682 | 21,918 | 122% |
| 事故等 (エアバッグ類) | 62 | 61 | 101% |
| | 26,294 | 26,286 | 100% |
| 事故等 (フロン類) | 95 | 98 | 97% |
| | 46,235 | 47,017 | 98% |
| 利息【金額】 | 71 | 65 | 109% |
| 合計【金額】 | 574 | 514 | 112% |
| 前年同期比で0.6億円増加 | | | |

前年度までの特預金発生件数の推移



【特預金の発生事由】

- 輸出返還時効 … 預託済み自動車が中古車として輸出された後、2年間返還請求がなかった場合の再資源化預託金等
- 非認定全部利用 … 解体自動車が非認定全部利用者へ引き渡された場合の再資源化等預託金
- フロン再利用 … フロン類が再利用された場合の再資源化等預託金
- 事故等 … 事故等で使用済みとなり処理不要となったエアバッグ類・フロン類の再資源化等預託金

2. 2023年度第1四半期の決算（3）承認・認可済特定再資源化預託金等の管理に関する会計

第1Q（4月～6月）においては指定再資源化機関に、計画通り、11.1億円の出えん等を実施した。また、当年度においては23.6億円の出えん等を行う予定。

【ストック】

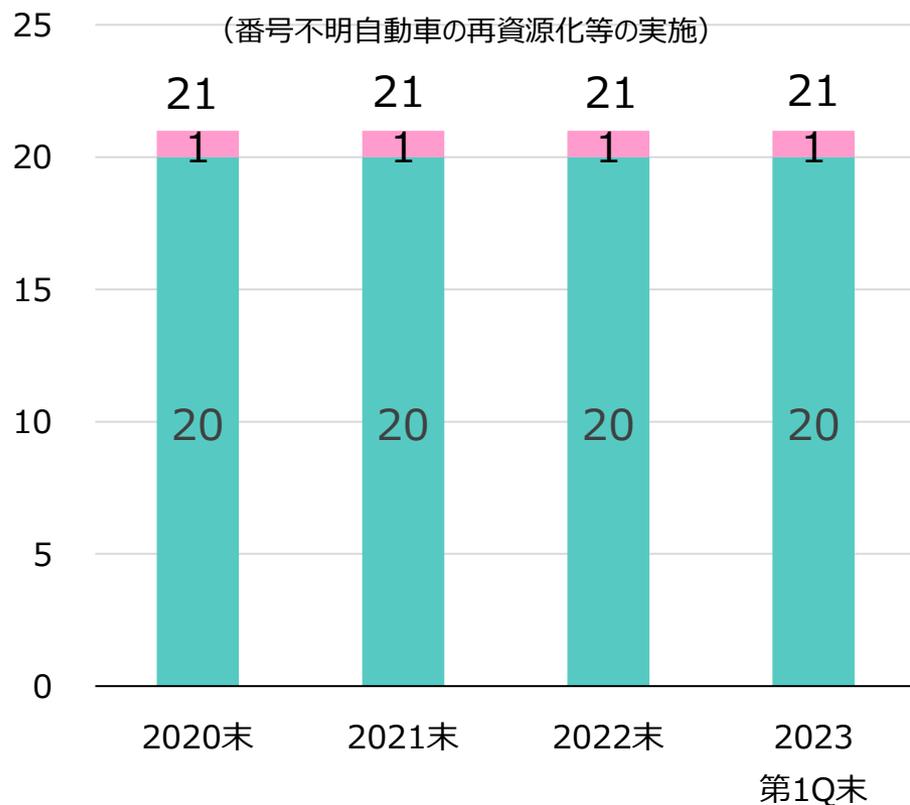
承認済特預金残高の推移

■ ①JARCの事業継続に対応する資金

■ ②大規模災害に対応する資金

（番号不明自動車の再資源化等の実施）

（単位：億円）



【フロー】

2023年度において

「再資源化預託金の管理に関する会計」から繰り入れる額

| | 用途 | 金額 (百万円) |
|----------|----------------------------|----------|
| 第1Q (実績) | ・離島対策等支援事業 | 200 |
| | ・大規模災害への事前対応 | 5 |
| | ・自動車リサイクル情報システムの大規模改造 (設計) | 902 |
| 第2Q (見込) | — | — |
| 第3Q (見込) | — | — |
| 第4Q (見込) | ・大規模災害への事前対応 | 8 |
| | ・理解活動の取組 | 262 |
| | ・自動車リサイクル情報システムの大規模改造 (設計) | 982 |
| 合計 | | 2,359 |
| 内訳 | 当会計にストック | — |
| | 3指定法人の事業会計に出えん等 | 2,359 |

2. 2023年度第1四半期の決算 (4) 資金管理業務に関する事業会計

資金管理料金収支は、預託台数が想定を上回っていることに伴い、収入及び支出（変動費）が予算を上回っている状況。当期収支差額は、最終的には△64百万円～△15百万円となる見通し。

フローの状況（当期収支差額）

① 資金管理料金収支

2023年度第1Q 収支計算書【資金管理料金収支】

(単位：百万円)

| | | 予算 (4月～6月) | 決算 (4月～6月) | 差異 | |
|--------|----------|------------------|---------------|-----|-----|
| 収入 | 資金管理料金収入 | 297 | 315 | △17 | |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| | 合計 | 297 | 315 | △17 | |
| 支出 | 変動費 | リサイクル料金収受に係る委託費 | 90 | 95 | △5 |
| | | 登録情報取得費 | 59 | 57 | 2 |
| | 固定費 | システム関連費 | 89 | 89 | 0 |
| | | データセンター（DC）委託費 | 10 | 10 | 0 |
| | | コンタクトセンター（CC）委託費 | 6 | 6 | 0 |
| | | 調査・研究事業費 | 2 | 0 | 2 |
| | | 監査費用 | 1 | 1 | 0 |
| | | 消費税 | 0 | 14 | △14 |
| | | その他 | 18 | 17 | 1 |
| | その他 | 特預金収受立替分 | 23 | 23 | 0 |
| | 合計 | 298 | 312 | △15 | |
| 当期収支差額 | | △0 | 2 | △3 | |

預託台数が想定を上回ることにより**増収となる見通し**

予算台数（年間） 462万台

現時点の見通し（年間） 468～489万台
 <第1Qにおけるペースを踏まえて>

預託台数が想定を上回ったことにより、自動車販売事業者等に支払うリサイクル料金収受に係る委託費等の**変動費も予算想定（年間）を上回る見通し**

現時点の見通し（年間）
 当期収支差額 △64百万円～△15百万円

↓
 第1Qにおける
 留保資金の増加額

2. 2023年度第1四半期の決算 (4) 資金管理業務に関する事業会計

輸出取戻し手数料収支は、輸出返還台数（申請件数）が想定を下回っていることに伴い、収入及び支出（変動費）が予算を下回っている状況。当期収支差額は、最終的には△25百万円～△24百万円となる見通し。

② 輸出取戻し手数料収支

2023年度第1Q 収支計算書【輸出取戻し手数料収支】

(単位：百万円)

| | | 予算 | 決算 | 差異 |
|--------|------------------|----|----|----|
| 収入 | 輸出取戻し手数料収入 | 85 | 83 | 3 |
| | その他 | 0 | 0 | △0 |
| | 合計 | 85 | 83 | 2 |
| 支出 | 変動費 | | | |
| | コンタクトセンター（CC）委託費 | 84 | 84 | 0 |
| | 登録情報取得費 | 4 | 4 | 0 |
| | 固定費 | | | |
| その他 | 4 | 1 | 3 | |
| | 合計 | 93 | 90 | 3 |
| 当期収支差額 | | △7 | △7 | △1 |

↓
留保資金の減少額

返還台数が想定を下回ることにより**減収となる見通し**

予算台数（年間） 144万台



現時点の見通し（年間） 139万台～143万台
＜第1Qにおけるペースを踏まえて＞



返還台数が想定を下回ることにより、コンタクトセンターの事業者を支払う輸出返還事務に係る委託費等の**変動費も予算想定（年間）を下回る見通し**



現時点の見通し（年間）
当期収支差額 △25百万円～△24百万円

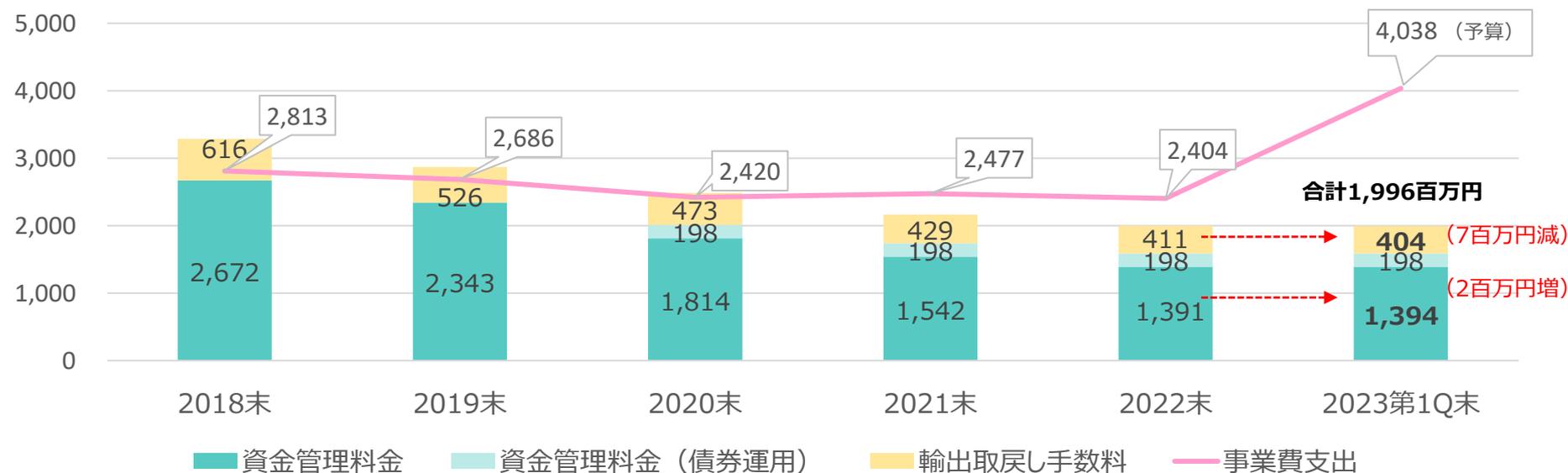
2. 2023年度第1四半期の決算 (4) 資金管理業務に関する事業会計

第1Qにおける当期収支差額を反映した資金管理業務に関する事業会計の留保資金の額は20億円。
1年間の事業費支出の額（40億円）を下回る適正な水準の額となっている。

ストックの状況（留保資金）

(単位：百万円)

事業費支出の額と留保資金の額の推移

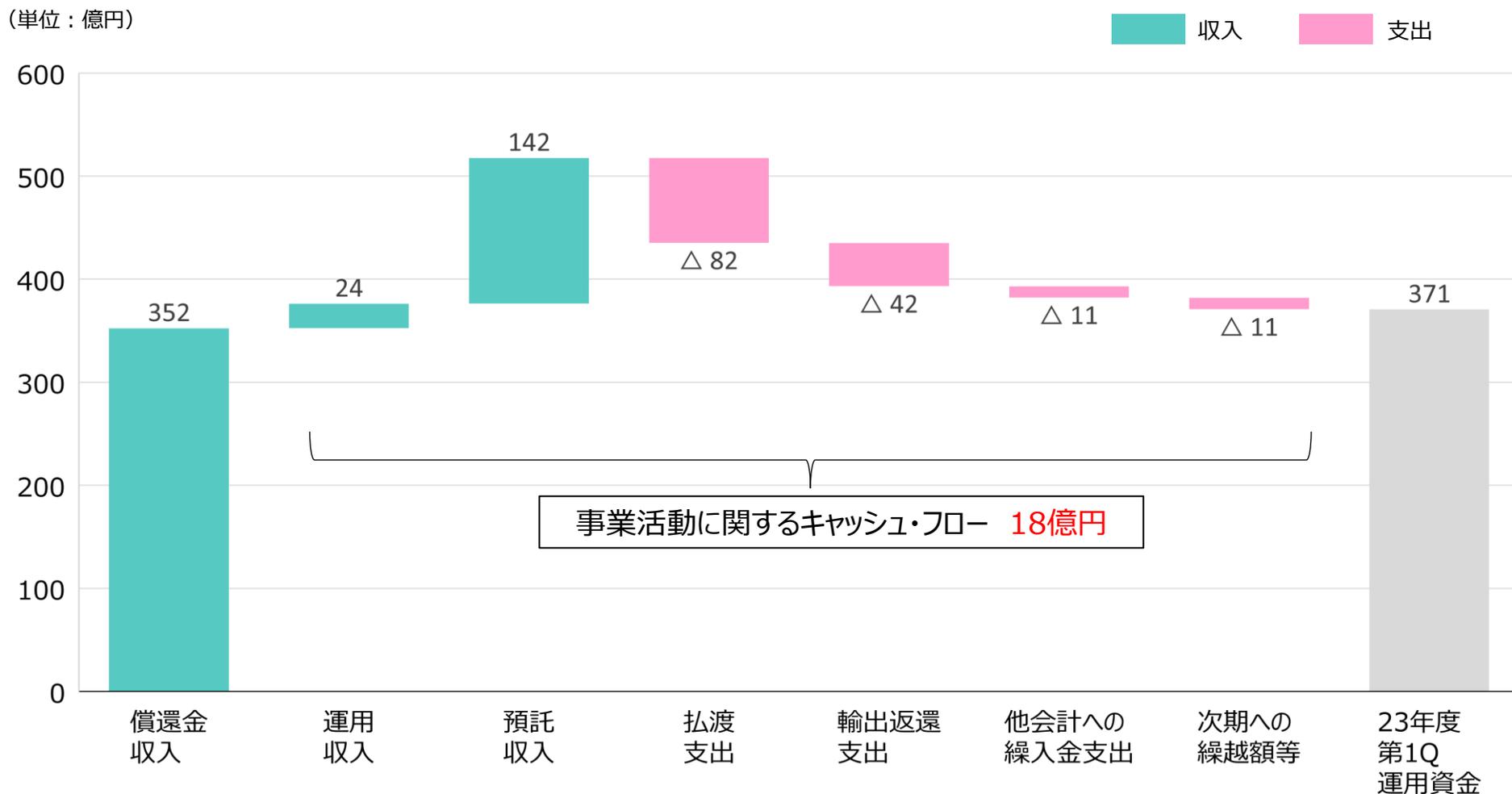


(単位：百万円)

| 年度 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 第1Q |
|---------------|-------|----------------------|-------|-------|-------|-------------------------|
| 事業費支出 | 2,813 | 2,686 | 2,420 | 2,477 | 2,404 | 4,038 |
| 留保資金 合計 | 3,288 | 2,869 | 2,485 | 2,168 | 2,001 | 1,996 |
| 資金管理料金 | 2,672 | 2,343 | 1,814 | 1,542 | 1,391 | 1,394 |
| 資金管理料金 (債券運用) | | | 198 | 198 | 198 | 198 |
| 輸出取戻し手数料 | 616 | 526 | 473 | 429 | 411 | 404 |
| イベント | | 輸出取戻し手数料 改定 (値下げ) | | | | システム大改造に係る 費用16億円を計上 |

3. 2023年度第1四半期の運用実績 (1) 運用資金

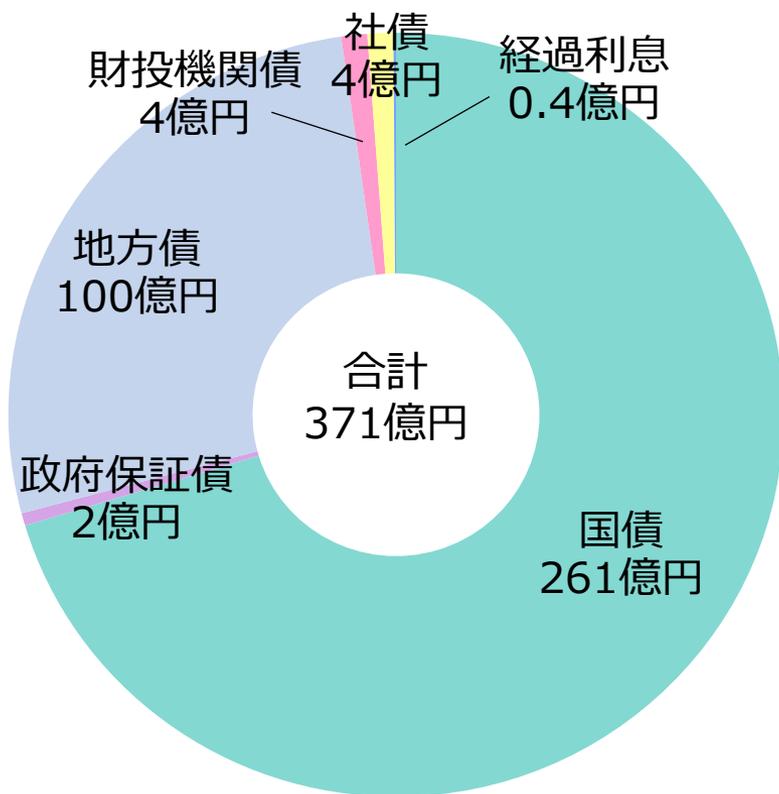
第1Qの運用資金は371億円。事業活動に関するキャッシュ・フローが18億円のプラスとなったため、償還金収入352億円を上回る。



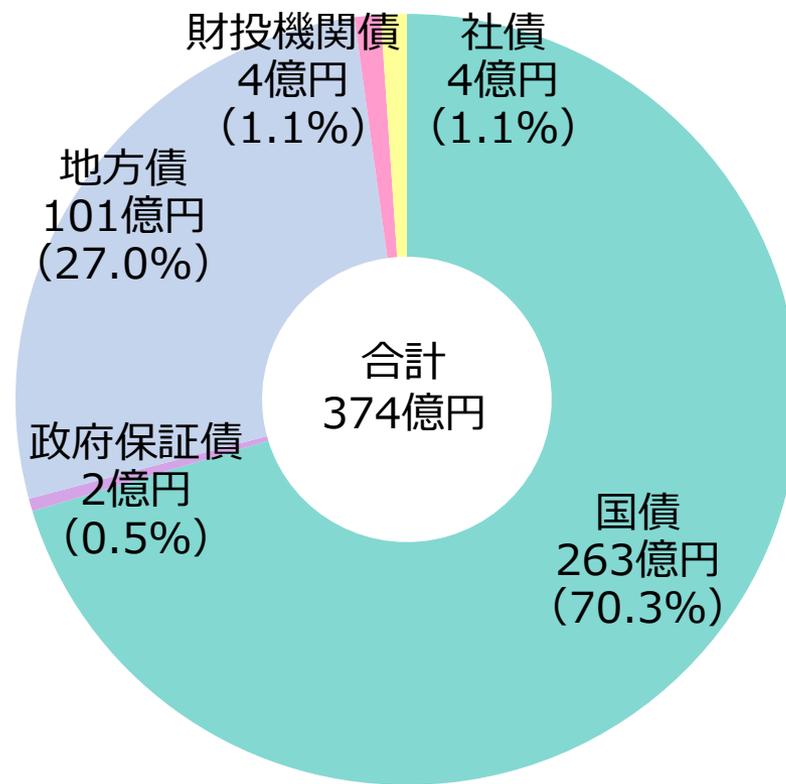
3. 2023年度第1四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

第1Qは年限5年、年限10年及び年限13年の債券を額面374億円取得。

簿価ベース



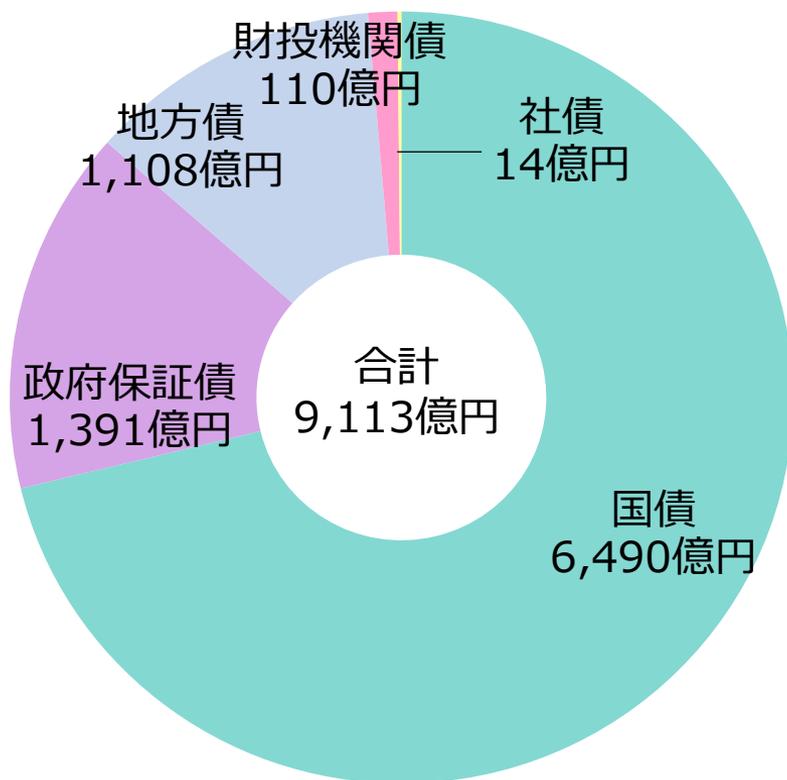
額面ベース



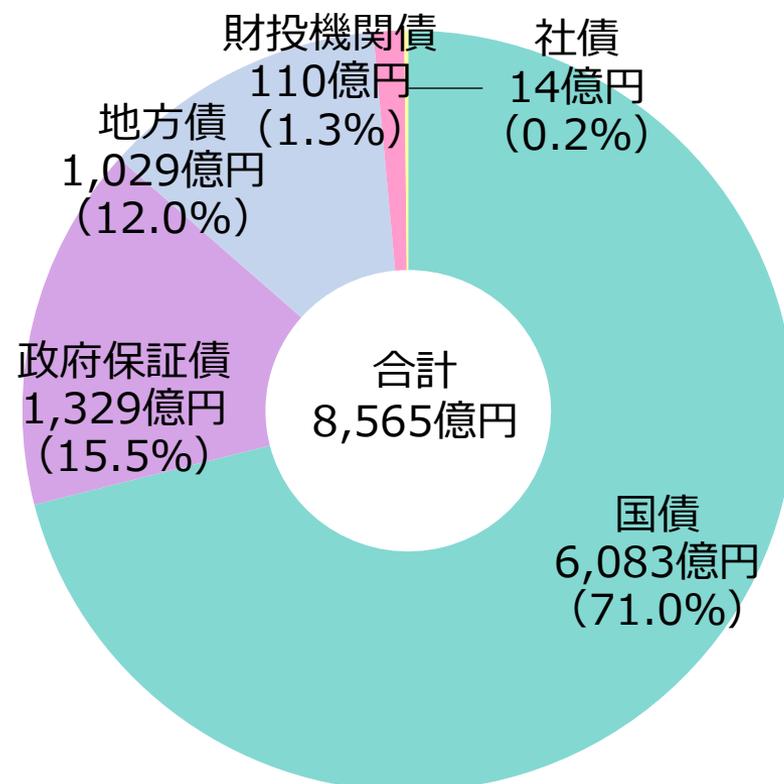
3. 2023年度第1四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

第1Q末における保有債券の額面残高は8,565億円となった。

簿価残高ベース

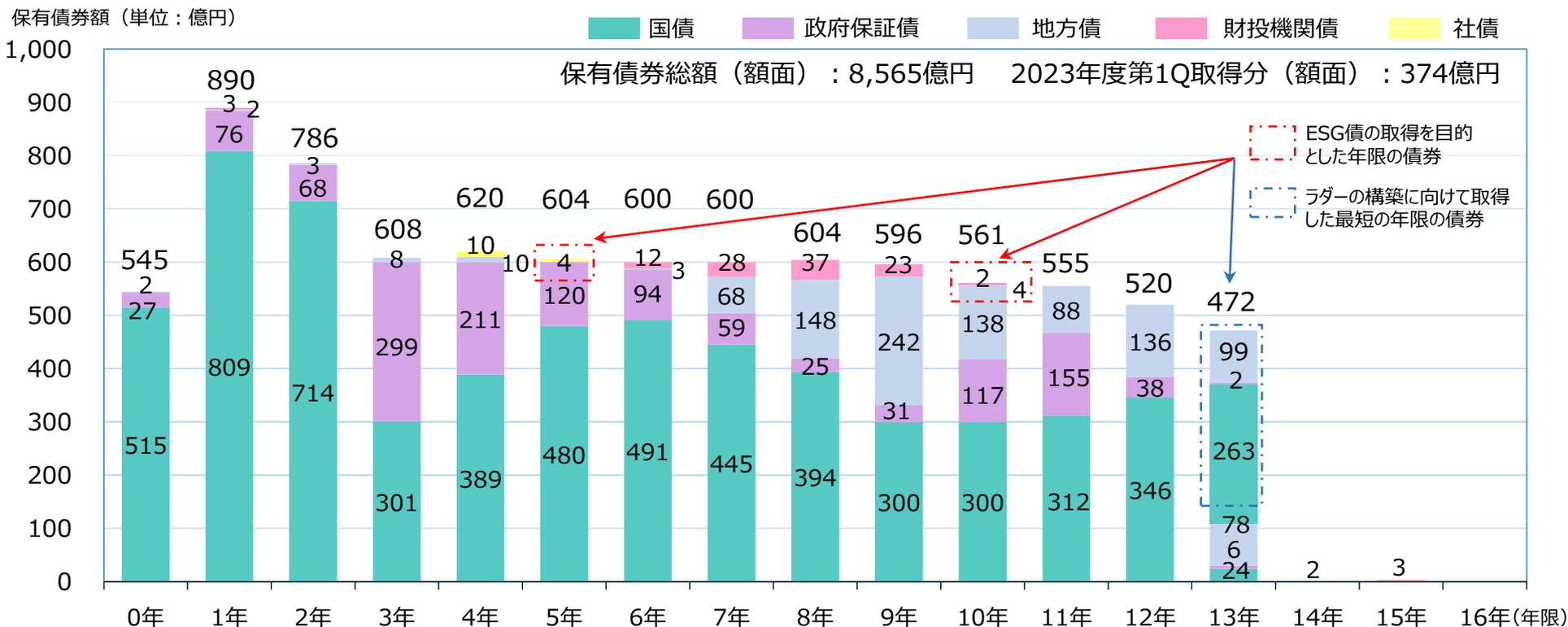


額面残高ベース



3. 2023年度第1四半期の運用実績（2）債券運用の実績

第1Qは年限5年、年限10年及び年限13年限の債券（額面374億円）を取得した。また、評価基準に合致した実績となった。



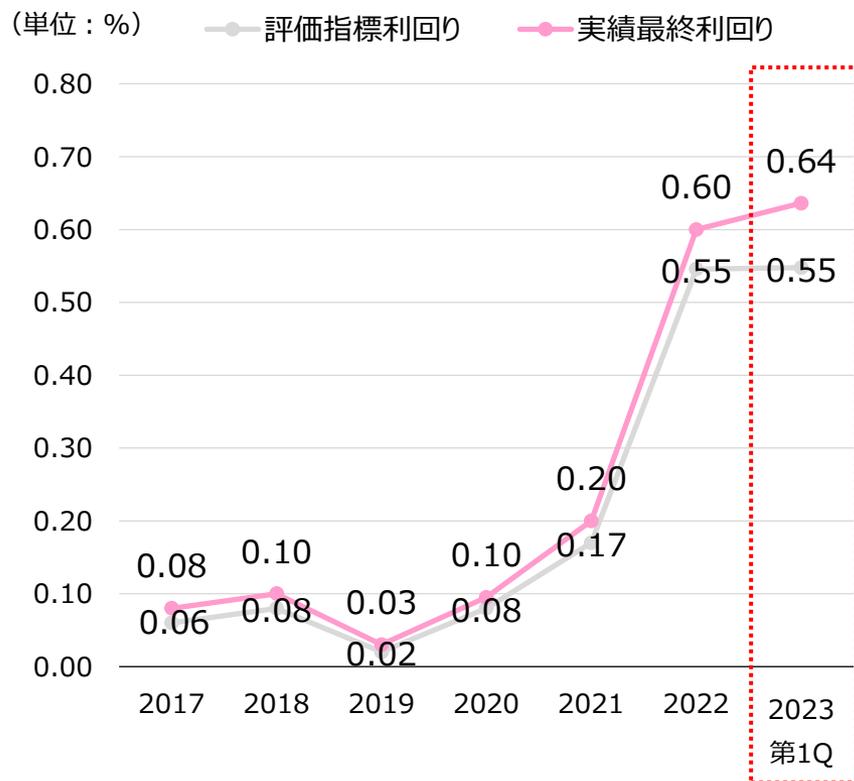
<評価基準>

- ① 年限3年以降で額面残高600億円程度まで構築した年限において、許容乖離幅が600億円から±5%の範囲に収まっていること。
- ② 年限3年以降で額面残高600億円程度まで構築した年限において、国債以外の債券の合計額が国債の額を超える場合は、国債の額からの乖離幅が5%以内に収まっていること。
- ③ 財投機関債及び社債の保有上限額（額面ベース）が、ポートフォリオ全体のうち5%を超えていないこと。
- ④ 社債の保有額が財投機関債の保有額を超えていないこと。
- ⑤ 財投機関債の新規取得額面が15億円、社債の新規取得額面が20億円を超えていないこと。

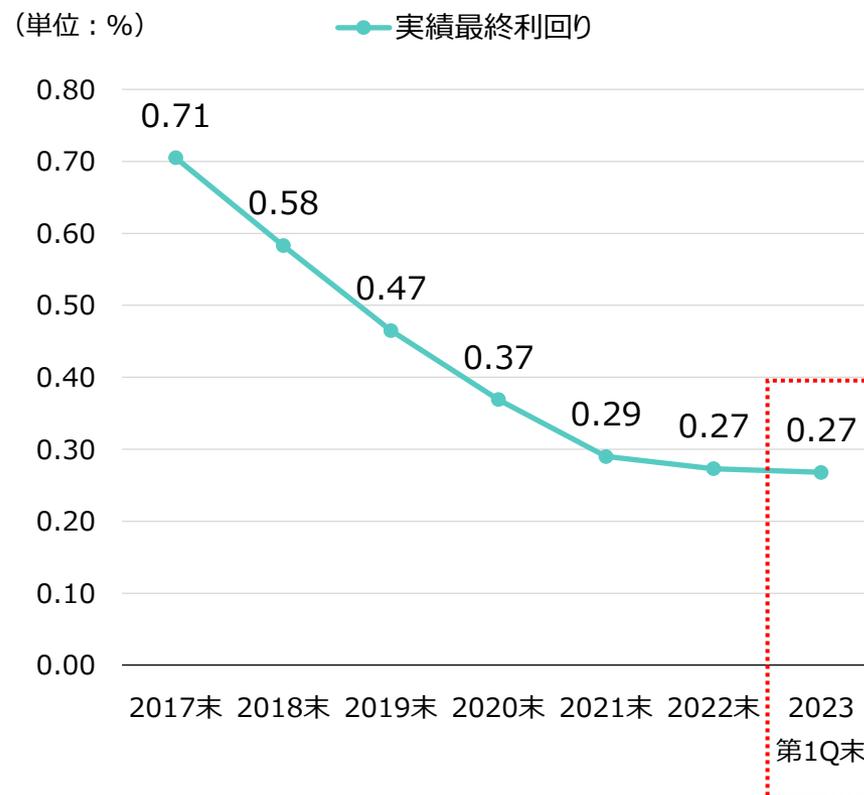
3. 2023年度第1四半期の運用実績（2）債券運用の実績

実績最終利回りは0.64%となり、評価指標利回り0.55%を上回る結果となった。また、継続的な低金利環境下にあるため、資産全体の利回りは低下傾向にあり、第1Q末時点では0.27%となった。

新規取得債券の利回り



資産全体の利回り



* 「評価指標利回り」とは債券を取得した年限の日々の市場における利付国債の最終利回り（単利）を、年限ごとの債券の取得比率実績により加重平均したもの。

3. 2023年度第1四半期の運用実績（3）ESG債の取得

第1QにおいてはESG債を10億円取得。本財団のWebサイトにて投資表明をした債券は下表のとおり。

| | | | |
|-------------|--|---|--|
| 発行体 | 福岡県 | 鉄道建設・運輸施設整備支援機構 | 都市再生機構 |
| 債券種別 | 地方債 | 財投機関債 | 財投機関債 |
| ESG種別 | グリーンボンド | サステナビリティボンド | サステナビリティボンド |
| 銘柄名 | 福岡県令和5年度第1回公募公債 (グリーンボンド・10年) | 第162回鉄道建設・運輸施設整備支援 機構債券(サステナビリティボンド) | 第187回都市再生債券 |
| 発行総額 | 200億円 | 100億円 | 100億円 |
| 利率 | 年0.681% | 年0.701% | 年0.681% |
| 期限 | 10年(償還年月日:2033年5月30日) | 10年(償還年月日:2033年5月30日) | 10年(償還年月日:2033年6月20日) |
| 格付 | M1(MDY) | AA+(R&I)、A1(MDY) | AA+(R&I)、A1(MDY) |
| 適合する 原則等 | <フレームワークに適合する原則等> グリーンボンド原則2021 ソーシャルボンド原則2021 サステナビリティボンド・ガイドライン2021等 | <フレームワークに適合する原則等> グリーンボンド原則2021 ソーシャルボンド原則2021 サステナビリティボンド・ガイドライン2021等 | <フレームワークに適合する原則等> グリーンボンド原則2021 ソーシャルボンド原則2021 サステナビリティボンド・ガイドライン2021等 |
| 資金使途 (例) | ① 福岡武道館移転整備(ZEB化) ② 糸島総合庁舎や久留米高等学校などの 県有施設への太陽光パネルの設備導入 ③ 飯塚総合庁舎、博多警察署などの県有 施設へのLED照明等の省エネ性能の高 い設備導入等 | <100%をグリーンプロジェクトの鉄道施設 の建設に充当> ① 主要幹線及び大都市交通線(京葉線 等) ② 民鉄線(東葉高速線等) ③ 都市鉄道線(つくばエクスプレス等)等 | ① 防災公園街区整備事業における公園 整備、植樹等によるCO2削減の取組み ② 市街地再開発事業等における自然エネ ルギー利用、CASBEE認証取得等及び 新築住宅のZEH化 ③ 既存賃貸住宅における植樹、樹木の移 植保存による環境維持型管理等 |

3. 2023年度第1四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

<兵庫県ESG債の資金使途の例>

| | |
|---------|---|
| 発行体 | 兵庫県 |
| 債券種別 | 地方債 |
| ESG種別 | グリーンボンド |
| 銘柄名 | 兵庫県令和5年度第4回公募公債 (グリーンボンド・10年) |
| 発行総額 | 150億円 |
| 利率 | 年0.661% |
| 期限 | 10年(償還年月日:2033年6月20日) |
| 格付 | - |
| 適合する原則等 | グリーンボンド原則2021 等 |
| 資金使途(例) | <ul style="list-style-type: none"> ① 治水対策の推進を目的とした河川改修 ② 下水污泥広域処理場整備事業 ③ 県有施設の照明のLED化・空調設備の更新・太陽光発電設備の導入 ④ 土砂災害防止や温室効果ガスの吸収に資する森林整備 ⑤ コウノトリの生息環境整備 等 |

治水対策の推進 (河川改修)



下水污泥広域処理場でのバイオガス生成や下水污泥の固形燃料化



土砂災害防止施設 (治山ダム) の整備



森林の多面的機能発揮のための間伐等の実施



コウノトリが生育できる環境づくり



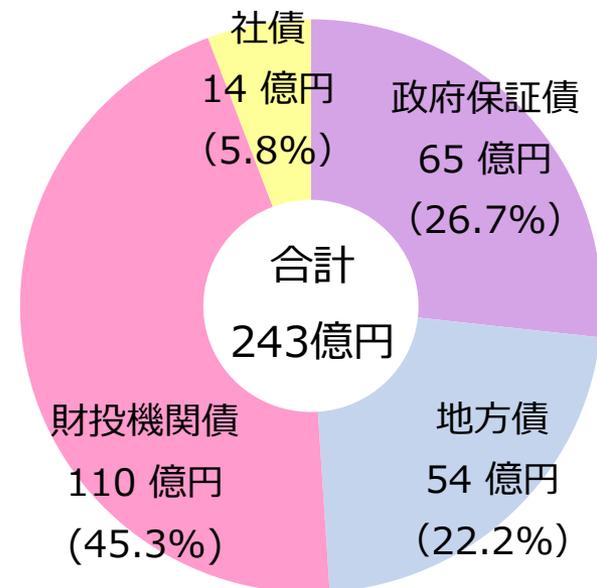
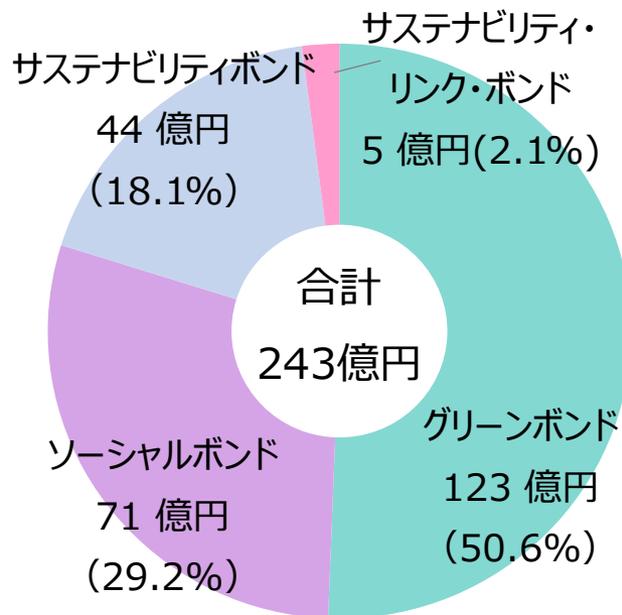
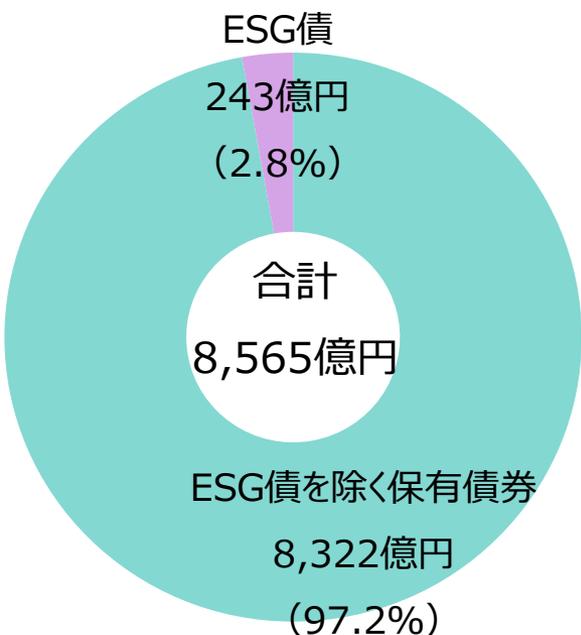
(引用) 兵庫県Webサイト : <https://web.pref.hyogo.lg.jp/index.html>

3. 2023年度第1四半期の運用実績（3）ESG債の取得

第1Q末時点における保有債券全体に占めるESG債の割合は2.8%となった。

保有債券全体に占める
ESG債の割合（額面）

ESG債の種別構成（額面）



<MEMO>
